

意宇川沿いの神社

生物多様性研究分科会 原 裕二

1. 地域の多様性を知ることの重要性

島根県技術士会では様々な分科会を設け、研究活動を行っている。その活動内容は多岐にわたるが、それは会則第2条に示されているように、主として地域の発展に役立つことを目的としている。

そのためには地域の現状、文化、風土、歴史的背景をしっかりと把握することが大切となる。そしてその状況をわかりやすく説明できるよう工夫したい。

今回、生物多様性研究分科会では、意宇川沿いの神社つまり風土記時代の中心地にある神社を訪ね、周辺の植生について調査した。

その概要を以下に示す。

2. 意宇川沿いの神社における植生

訪れた神社の位置図と植生は次表にまとめた。以下にその特徴を示す。

意宇川沿いの神社
位置図



意宇川沿いの神社 樹木の一覧表

神社名	地形・地質	境内にある樹木	神社周辺の樹木	備 考
磐坂神社 (いわさかじんじゃ)	丘陵地の尾根 黒雲母花崗岩【鶉 (ひよどり)花崗 岩】	杉、榊、サルスベ リ	スダジイ、シロダ モ、ヤブツバキ	倒れないかと心配に なる杉の巨木が印象 的。
熊野大社 (くまのたい しゃ)	丘陵地の尾根。意 宇川の畔。後 期白亜紀流紋岩 溶岩【八雲火山岩 類】	榊、モチノキ、ハ ナキササゲ(アメ リカキササゲ)	杉、スダジイ、サ ワラ、松	洗練された人工的な 樹林を形成する。
志多備神社 (したびじん じゃ)	入り組んだ丘陵地 の谷部。桑並川の 畔。黒雲母花崗岩【鶉 花崗岩】	モチノキ、ヒサカ キ(シブキ)、イ チョウ、スダジイ (蛇)、カゴノキ	スダジイ、タブノ キ、杉	日本一のスダジイと くちなわの総荒神が 有名。
毛社神社 (もこそじん じゃ)	東岩坂川沿いの平 地。水田の中。 沖積層	ヤブツバキ (蛇)、榊(蛇)	杉、タブノキ	スダジイでなく、ヤ ブツバキと榊に蛇が 宿る。
六所神社 (ろくしょじん じゃ)	意宇川の自然堤防 上。背後に出雲国 府跡。沖積層	杉(蛇)、イチョ ウ、チシャノキ、 榊	杉、タブノキ	敷地、建築、灯籠な どすべてが立派で格 式高い神社。
意宇の杜 (おうのも り)	意宇川の後背低 地。水田の中。 沖積層。	タブノキ、桜、ト ベラ		八束水臣津野命がな ぜここで国引き終了 を宣言したのか？風 土記の時代、既に水 田内の小山だったら しい。
真名井神社 (まないじん じゃ)	茶臼山南麓の山 腹。わずかに谷地 形。松江層アルカリ 玄武岩	イヌマキ	杉、スダジイ、ケ ヤキ	幽玄な杉林を上った 上にある。さわやか な印象の神社。
山代神社 (やましろじん じゃ)	丘陵地の山腹。 松江層アルカリ玄 武岩	杉、イヌマキ、 榊、ソメイヨシ ノ、山桜、タラヨ ウ、タブノキ、タ チバナ	杉、スダジイ、タ ブノキ	参道の大きな山桜が 特徴。境内の樹種が 多い。古志原は寛文 ～元禄時代、大根島 から入植し開拓した らしい。
神魂神社 (かもすじん じゃ)	ゆるやかな丘陵地 の尾根部。布志名 層砂岩	ヤブツバキ、タブ ノキ、杉、榊、モ チノキ、モミジ	桜、モミジ、杉、 松、スダジイ、タ ブノキ	室町時代初期に建立 された大社造りで国 宝。

【特 徴】

1. 暖地性の広葉樹であるタブノキやスダジイが多い。
2. 杉林も多い。鎮守の森ではあるが、手つかずの自然林というよりも、大半は植林された人工林と考えられる。
3. 松は、熊野大社や神魂神社以外、あまり見られなかった。
4. 境内にある樹木は多種多様であり、神社固有の好みが見られる。
5. 神社の多くは丘陵地の尾根部に位置する。
6. 現在、沖積低地に位置する神社は自然堤防上などにあるとはいえ、数百年に一度の洪水では冠水する。元は他所にあった可能性がある。
7. 意宇の杜は、風土記の意宇郡（国引き神話）に、既に「郡家の東北のほとり、田の中にあるこやま、是なり」と書かれている。八束水臣津野命が杖を突き立てたとき、どのような風景であったか。少なくとも現在見られる植生は新しいように見える。



意宇の杜 タブノキ、桜、トベラから成る。
どう見ても樹齢 100 年まで。植え替えているのか？

3. 志多備神社のスダジイ

ここで今回訪れた神社のうち、松江市八雲町西岩坂の志多備神社について述べる。神社周辺の丘陵地には、スダジイ、タブノキ、杉が認められる。

志多備神社は、日本一のスダジイとともに、蛇（くちなわ）の形をした総荒神が有名である。この総荒神はわらで蛇の形に編まれた巨大なもので、スダジイに巻き付けられている。

毎年 11 月 9 日に蛇の総荒神を作製する。3 自治会で持ち回りとなっているので、氏子から見れば 3 年に一度の参加となる。

朝から作製を開始し、わらを継ぎ足し継ぎ足しして蛇の形とし、午後には完成して奉納する。わらはほぼ 30 束必要とのことである。

個々の自治会ごと、家庭ごとにも小さな荒神さんを作っておき、11 月 14 日には、それも合わせてお祓いしてもらうことになっている。

総荒神はこれらの荒神さんの中心である。社殿の裏の山腹に背勝（せのかつ）

荒神という小さな荒神さんがあるが、これにも小型の蛇を作ってお祭りする。

一方で、山門の横にも立派なスダジイがあるが、これは遮日（しゃにち）さん(郷土の守護神・産土神)なので蛇は巻かない。

ちなみに通常の祭礼ではたくさんのお供え物をするが、このときには御神酒程度で質素に行うとのことである。



わらの蛇

志多備神社のスダジイと総荒神

とてもスダジイには見えず、岩石のように思える。

(地元の氏子からの聞き取り)

このスダジイは志多備神社境内の外に位置する。

意宇川周辺の神社では多少形状が異なるが、他にもわらの蛇を祀る風習がある。毛社神社では境内よりも外に、六所神社では境内の最も端に祀ってある。

総荒神を祀る風習は、洗練された宗教行事つまり固有の神様を神社に祀るという神道とはやや異なり、もう少し原始的なアニミズムの趣が感じられる。

4. まとめ

今回の企画は、単に神社巡りではなく、意宇川沿いの自然環境と歴史的背景を同時に考える良い機会となった。

松江市北部(嶋根郡)ではどのようなになっているか？西出雲(出雲郡、神門郡)はどうか？島根半島部や雲南との違いは？などと興味は尽きない。

島根県には出雲大社と石見銀山しかない、わけではない。

今後とも観光パンフレットやホームページに載っていない隠れた楽しみを見つけ出すことで、新たな魅力を発信していきたい。

5. 参考文献

加藤義成(1986)：修訂出雲国風土記参究，今井書店，58-74.

加藤義成(1997)：出雲国風土記，報光社，5-7.

島根県古代文化センター(2014)：解説出雲国風土記，島根県教育委員会，28-61.

林弥栄 編(1994)：日本の樹木，山と溪谷社